

平成20年度 病害虫発生予察情報 注意報第2号

平成20年7月30日
島 根 県

斑点米カメムシ類の発生が多く、ハナエチゼンや出穂したコシヒカリ等ではカメムシ類が高密度に生息する圃場がみられます。今後、斑点米被害の多発生が懸念されますので注意報を発表します。

発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

記

1. 病害虫名 斑点米の原因となるカメムシ類
2. 発生地域 県下全域
3. 発生時期 8月～
4. 発生量 多い
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 7月23～28日に出穂している圃場ですくい取り調査を行ったところ、発生圃場率は87.0% (平年：70.5%)、平均頭数は9.0頭/20回振り (平年：7.0頭) で平年に比べてやや多い。特にアカスジカスミカメの生息密度が平年に比べて高い。
 - 2) 予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数は285頭 (7月第5半旬累積、平年97.8頭、昨年67頭) で平年に比べて多い。
 - 3) 1ヶ月予報(7月25日広島地方気象台発表)によると、気温は高く経過し、晴れる日が多い見込みであり、カメムシ類の増殖に好適な条件が予想される。
6. 防除対策および防除上の注意事項
 - 1) 粉剤、液剤による防除は、第1回目は穂揃期の3日後、第2回目はその10日後に散布する。その後、圃場に成虫や幼虫の発生が認められる場合には追加防除を行う。畦畔などにイネ科雑草がある場合は、畦畔を含めて散布する。広域的な一斉防除を行うとより効果的である。
 - 2) 粒剤による防除は出穂7～10日後に湛水状態で行い、その後成虫や幼虫の発生に応じて追加防除を行う。
 - 3) 圃場内のヒエ類などの穂はカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。
 - 4) 薬剤の使用に当たっては、農薬の使用基準ならびに農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。
7. 薬剤による防除
 - 1) 種類、使用時期、使用回数及び使用量・濃度(本田期)

薬 剤 名	使用時期、使用回数及び使用量・濃度(本田期)	系統名
スミチオン乳剤	収穫21日前まで 3回以内 1000倍	有機リン系
スミチオン粉剤3DL	収穫14日前まで 3回以内 (ただし出穂前は1回) 3～4kg/10a	

薬 剤 名	使用時期、使用回数及び使用量・濃度(本田期)	系統名	
バイジット乳剤	収穫30日前まで 1回以内 1000倍	有機リン系	
バイジット粉剤2DL	収穫21日前まで 2回以内 3~4kg/10a		
トレボンEW	収穫21日前まで 3回以内 1000倍		
トレボン水和剤	収穫21日前まで 3回以内 2000倍		
トレボン乳剤	収穫21日前まで 3回以内 2000倍		
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで 3回以内 3~4kg/10a		
MR. ジョーカーEW	収穫14日前まで 2回以内 2000倍		
MR. ジョーカー粉剤DL	収穫7日前まで 2回以内 3~4kg/10a	ネオニコチノイド系	
ベストガード粉剤DL	収穫14日前まで 4回以内 4kg/10a		
ベストガード粒剤	収穫14日前まで 4回以内 4kg/10a		
アドマイヤー粉剤DL	収穫21日前まで 2回以内 4kg/10a		
スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL	収穫7日前まで 3回以内 3kg/10a		
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	収穫7日前まで 3回以内 3kg/10a		
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで 3回以内 4000倍		
ダントツ粉剤DL	収穫7日前まで 3回以内 3~4kg/10a		
ダントツ粒剤	収穫7日前まで 3回以内 3~4kg/10a		
キラップフロアブル	収穫14日前まで 2回以内 1000~2000倍		フルボリン系
キラップ粉剤DL	収穫14日前まで 2回以内 3~4kg/10a		
キラップ粒剤	収穫14日前まで 2回以内 3kg/10a		

H20.7.30現在

2) 散布時期および回数

粉剤と液剤は穂揃期3日後とその10日後の2回、粒剤は出穂7~10日後に散布する。その後は発生に応じて散布する。

3) 散布量

10a当り液剤150%、粉剤、粒剤は所定量を散布する。

8. 出穂した水稻におけるカメムシ類の発生状況(7月下旬・圃場内20回振り)

